

# 令和5年度 学校評価書

令和6年3月31日  
 学校法人山名学園 山名幼稚園長 諸井理恵  
 山名幼稚園学校評価委員会

- 幼稚園の教育目標
  - 元気な子 … ①戸外でなかよく遊ぶ子 ②正しい生活習慣を身につける子
  - やさしい子 … ①情緒豊かで思いやりのある子 ②自分や友達を大切に使う子
  - 考える子 … ①物事に興味をもち考えたり工夫したりする子 ②最後までやりとげる子
  - ありがたいのいえる子 … ①感謝の気持ちを持てる子 ②ものをたいせつにする子
- 本年度の重点課題 「明るいあいさつのある環境」「がんばる力を引き出す環境」「思いやりの生まれる環境」「祈りと感謝のある環境」心の成長のための環境の充実を目指す。  
 子どもたちの安心安全な環境を守りつつ、工夫して子どもたちの成長にとって必要な活動と学びの場を考えていく。

### 3. 評価項目に対する自己評価及び学校評価

項目	評価点	自己評価結果	評価点	学校評価結果
目別評価	幼児の姿	A (3歳児)園生活の流れを理解して身の回りのことが自分でできるようになった。自分の知っている言葉を使い、つたない表現ではあるが思いを伝えることができるようになった。(4歳児)少人数で気の合う友だちとの遊び中心であったが、仲間意識が芽生え集団で遊ぶ楽しさを覚えた。(5歳児)グループで話し合うことをたくさん経験していくうちに自分の思いを大切に、周囲の意見も取り入れ遊びや活動ができるようになった。一人一人が思いを伝えられるよい雰囲気の中、分け隔てなく人に接する思いやりのある生活ができた。	A	明るいあいさつのできる素直な子どもが多いと感じる。園の教育目標に即した元気な子供たちが育っていると感じる。基本的な生活習慣を身につけている子どもたちの姿がある。
	幼児への対応	A ひとりひとり個性のある子どもたちに接し、教師はそれぞれに合った多様な対応を心がけてきた。個々への対応を手厚くしつつ、仲間の結びつき、集団活動の楽しさや意義を感じられるよう互いの橋渡しをすることが、相手を思いやる気持ち育てにつながった。また、子どもたちが自分の思いを素直に伝えて表現できる環境を作ってきた。教師のそういった取り組みや考え方を保護者に共有できるよう伝える努力もしたい。	A	職員の連携ができていく。カリキュラムの研究に熱心に取り組んでいる。
	保護者への対応	B 近年、園と保護者間での細やかな情報の共有が必要な流れになり、園が対応すべき課題の対策について文書での説明や、感染症の状況報告の発信などに尽力した。再開した親子行事への参加にあたり、新たに対応策をよく練り直す努力した。各家庭の保護者の就労や、出産による子育て環境の変化など、傾聴し理解を深め、柔軟に対応できるよう引き続き努力したい。	A	保護者の多様なニーズにICT化で対応するなど、努力をしている。園の様子が保護者に伝わるよう、活動写真撮影を業者に委託するなど新しい取り組みもしている。
	教育内容環境	A 月1度の園内研修では環境構成に視点を置き、各クラスの遊びのコーナー・廃材コーナーの充実を主題に1年間学んできた。このことから保育のマンネリを防ぎ、教師が常に子ども主体の遊びの工夫を念頭に置き保育をすることができた。年齢や経験年数の違う教師が共通理解を深める機会となっている。今後も保護者の午前保育への協力から成り立つ学びの場であることに感謝を忘れず、今後も引き続き充実させていきたい。	A	子どもたちが各々楽しく遊べる環境が充実している。特色のある活動もあり、子どもたちは多様な体験ができていく。
	アンケートからの気づき	B 前年度、保護者の要望として参観の機会を増やし園活動への協力の機会を望む声があったが、今年度は保護者と協力して取り組む行事も充実し、おおむね要望がかなっていると感じる。家庭と園の連携も、必要な情報共有により安心感を感じてもらえる対応に近づいた。アンケートの上でも各家庭で子どもたちの成長を実感されている様子がうかがえた。保護者の協力的な姿勢もあり、子どもの成長につながっていると感じる。	A	アンケートには保護者の感謝の言葉が多い。3年過ぎた年長児の保護者からの喜びの声が多く、職員は自信をもって良いと感じる。
本年度の総合評価		今年度は、職員の中途交代があったが、チームワークよく補い合いながら、子どもたちの保育の質を落とさず続けることができた。新採用の職員も迎え、人材の育成にこれから一層の努力をしていくところである。感染症対策に追われた昨年度までの流れと変わり、通常保育ができるようになった今年度は、職員の保育の質向上に研修を重ね、それぞれが努力や工夫をし、生き生きと活動ができたように思う。4年ぶりに行った年長児親子の奈良での1泊も、思い出深いものになり保護者からも好評を得た。伝統的に続けてきたことのアップデートもでき、園として前進ができたと思う。	総合評価	おおむね、安定した教育活動ができていく。一昨年、伝統的に続いている活動だった「おゆうぎ会」は、「リズムフェスティバル」になり内容の見直しもされた。今年度は、親子行事として伝統的に続けてきた「年長おちばがえり」を再開できたことは保護者の喜びでもあった様子がアンケートからうかがえた。行事の充実も、職員の努力の賜物だと思うが、保護者の期待や理解によって支えられていると思う。今後も、そういった保護者のファンを大切にしていけることも存続のカギとなると思う。
今後の課題取り組みの考察		園児減少が目下の課題である。近隣に保育施設の充実したこともあり、少子化の加速する中、定員を大きく下回る状況は今後も続くと思われ。園の人材育成や教育内容はこれまで培った積み重ねが財産となっているが、それだけでは乗り越えられない状況下にある。新年度より、施設給付型園として出発する。職員のモチベーションを高める評価軸を生かし、より一層の向上を目指したい。	総合所見	園児の減少という課題はあるものの、教育内容や園の環境は充実している。多様な活動にも定評があり、子どもたちの成長につながっている様子がうかがえる。在園保護者が協力的であり、園にとっても連携がとりやすいと思う。今後も園が存続し、価値ある幼児教育を提供し続けてほしい。

※評価点の表示方法 A・・・十分達成されている B・・・達成されている C・・・取り組んでいるが成果が十分でない D・・・取り組みが不十分である